

「光環境（照度）の測定」に関するレポートの内容について

※レポートには、以下の内容などを記入するとよい。もちろん、この他に付け加えてもよい。
10月18日（金）に配布した『「音環境の測定」に関するレポートの内容について』も参照。

今回のレポートでは、

「人工照明環境の評価」と

「昼光照明環境の評価」

の2つに分けて書いた方が書きやすいかもしれない。

1. はじめに

- ・音環境の測定のレポート内容に関する補足を参照。

2. 実験の方法

- ・音環境の測定のレポート内容に関する補足を参照。
- ・測定の対象については、光環境に影響を与える要因は是非記入しよう（人工照明環境では照明器具の位置や数、昼光照明環境では窓や開口部の位置、高さ、大きさ、方角など）

※知らない人が読んでも、同じような測定を行えるかどうか、がポイント

3. 実験の結果

- ・音環境の測定のレポート内容に関する補足を参照。特に、「注）グラフや図表の作成にあたって」は再度確認しましょう。
- ・それぞれの測定場所での照度の値（人工照明、昼光照明ともに）を、測定位置を示した『分布図』の中に書き込む（分布図の作成は手書きでもよい）。その際、平均値を示すことになるだろうが、どのように計算するか、を考えよう。毎回、毎回の測定値（生データ）は掲載しなくてもよい（掲載してもよいが）。また、分布図では、等値線（同じ照度を結ぶ線。地図の等高線のイメージ。）を描き入れてみよう。等値線は基本的には交わらない点に注意しよう。
- ・屋外の全天空照度については、時々刻々と変化するので、折れ線グラフで測定値の推移を描いてみよう（折れ線グラフは推移がわかりやすい）。

4. 考察

- ・音環境の測定のレポート内容に関する補足を参照。
- ・結果を「合理的」に解釈する。こんなことが言えるのではないかと考える。どうしてこんなことになったのであろうか？その理由を考える。
- ・昼光照明環境については、昼光率を計算する。人工照明環境と昼光照明環境の両方で、均斉度を計算する。均斉度の結果はどのように評価すればよいだろうか。
- ・昼光率は、平面図の中に描き入れて、分布図を作成しよう。分布図には、等値線（同じ昼光率を結ぶ線。地図の等高線のイメージ。）を描き入れてみよう。等値線は基本的には交わらない点に注意しよう。昼光率の結果はどのように評価すればよいだろうか。
- ・照度基準などの基準値と比較して、評価してみよう。
- ・何かを基準にして、他のものとの「差」を求めてみてもよい。
→例えば、ある地点の測定値を基準にして、対象とする地点との差は？差が小さいところは？差が大きいところは？差を確認するために新しいグラフを作ることができる。
- ・新しいグラフ（結果を表すグラフとは違うグラフ）を作成する。例えば、壁からの距離と昼光率の関係のグラフなどはどうか？

☆「新しいグラフ」を作成することはとても有用な方法！

- ・照度は、基本的に足し算、引き算が可能なので、いくつかの条件を重ね合わせてみると面白いかもしれない。
- ・矛盾があるところや違いがあるところが注目点！

5. 感想

- ・自由に

6. その他

- ・参考文献の書き方、参考文献の付け方はしっかり学んでおく。